

科目名	衛生管理					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
担当教員	小林未来			実務授業の有無		
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年間	開講時期	通年	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	90	
授業概要、目的、授業の進め方	<p>授業は座学形式で合同授業で1～2年間通年で以下の内容を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 衛生専門課程でもある美容師の衛生分野の知識を学ぶ 2. 公衆衛生・環境衛生・感染症・衛生管理技術の全4編を学ぶ 3. 美容師国家試験（筆記）課題科目でもあることから対策授業も実施 					
学習目標（到達目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・美容師国家試験（筆記）の取得レベルの知識を身につけるとともに、美容師として必要な感染症、消毒方法の知識を学び現場で活かせることを目標とする。 					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<ul style="list-style-type: none"> ・日本理容美容教育センター出版：衛生管理 ・理容師美容師筆記試験問題と解答、解説 ・その他、補助プリント 					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	第1編 公衆衛生 ・第1章公衆衛生の概要 公衆衛生の意義と課題・公衆衛生発展の歴史			座学形式、指定教科書（P7～14）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
2	理容師・美容師と公衆衛生・保健と理容業と美容業			座学形式、指定教科書（P15～19）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
3	第2章 保健（母子保健・成人、高齢者保健・精神保健）			座学形式、指定教科書（P20～39）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
4	第2章 環境衛生 第1章 環境衛生 環境衛生の内容・環境衛生の目的と意義・環境衛生活動			座学形式、指定教科書（P41～45）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
5	空気環境・衣服、住居の衛生			座学形式、指定教科書（P46～59）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
6	上下水道と廃棄物 ・衛生害虫とネズミ			座学形式、指定教科書（P60～68）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
7	環境保全 ・定期テスト範囲対策			座学形式、指定教科書（P69～72）をもとに重要カ所にアンダーライン ・対策プリントにて復習		
8	第3編 感染症 ・第1章 感染症の総論 人と感染症（感染症発見の歴史、感染症と法律・分類）			座学形式、指定教科書（P73～81）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
9	病原微生物 （微生物の種類、形と大きさ、構造、増殖と環境の影響）			座学形式、指定教科書（P82～87）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
10	感染症予防 （微生物の病原性と人体の感受性・汚染感染発病・錠剤細菌叢・免疫と予防接種、感染症発生の要因・感染症予防の3原則）			座学形式、指定教科書（P88～100）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
11	第2章 感染症の各論 ・理容、美容と感染症 主な感染症（微生物の病原性と人体の感受性・飲食物、血液等、動物、節足動物を介して感染する感染症）			座学形式、指定教科書（P103～122）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
12	具体的な対策の例			座学形式、指定教科書（P123～128）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
13	第4編 衛生管理技術 ・第1章 消毒法総論（消毒とは・消毒の意義）			座学形式、指定教科書（P129～134）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
14	理容・美容の業務と消毒との関係・消毒法と適用上の注意			座学形式、指定教科書（P135～147）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
15	第2章 消毒法各論 理学的消毒法・化学的消毒法・優れた消毒法とその実施上の注意			座学形式、指定教科書（P148～166）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
16	第3章 消毒法実習 ・各種消毒薬・理容所、美容所の消毒の実際			座学形式、指定教科書（P167～197）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
17	第5編 衛生管理の実践例・理容所、美容所における衛生管理要領・理、美容所の自主的管理点検			座学形式、指定教科書（P198～234）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
18	定期テスト範囲対策			座学形式、指定教科書及び補助テキストを参考に対策プリントにて復習		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験 70%、出席率20% 学習意欲10% 成績評価基準：A(80～100点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)とする。				美容師にとってお客様、スタッフ、そして自分の生を衛ることが重要ある事を認識する事。各章毎での重要カ所を教科書アンダーライン、補助プリントへの記入をすること。また定期テスト、国家試験に向けての対策プリントの復習も必要です。		
実務経験教員の経歴						

科目名	保健					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
担当教員	須佐 翼、松木 達彦			実務授業の有無		
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年間	開講時期	通年	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	90	
授業概要、目的、授業の進め方	1、人体の構造や機能について頭頸部を中心に学び、理解を深める 2、皮膚とその付属器官について詳細を学ぶ					
学習目標 (到達目標)	人体の構造・皮膚科学を中心に学び、美容師業務の特徴である頭皮・毛髪・肌の健康管理ができる知識と技術、特に皮膚や毛髪に関し深く理解する（国家試験取得レベルの知識習得）					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	公益財団法人 日本理容美容教育研修センター 保健 その他 オリジナル補助テキスト					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	頭部、顔部、頸部の体表解剖学			座学形式、指定教科書（P12～21）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
2	骨格器系			座学形式、指定教科書（P22～29）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
3	筋系			座学形式、指定教科書（P30～37）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
4	神経系			座学形式、指定教科書（P38～41）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
5	感覚器系			座学形式、指定教科書（P42～47）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
6	血液・循環器系			座学形式、指定教科書（P48～55）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
7	呼吸器系			座学形式、指定教科書（P56～59）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
8	消化器系			座学形式、指定教科書（P60～65）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
9	皮膚の構造			座学形式、指定教科書（P68～77）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
10	皮膚付属器官の構造			座学形式、指定教科書（P78～89）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
11	皮膚の循環器系と神経系			座学形式、指定教科書（P90～93）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
12	皮膚と皮膚付属器官の生理機能			座学形式、指定教科書（P94～107）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
13	皮膚と皮膚付属器官の保健			座学形式、指定教科書（P108～131）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
14	皮膚と皮膚付属器官の疾患			座学形式、指定教科書（P132～181）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
15						
16						
17						
18						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験 70%、出席率20% 学習意欲10% 成績評価基準：A(80～100点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)とする。				頭頸部の解剖学的な構造、生理学的な構造を学ぶことでより良いデザインをうみだしていける様にする。薬剤を扱うので頭皮・毛髪の知識をしっかりと身につけること。教科書へのアンダーラインは勿論のこと、補助テキストへの記入もしっかり行うこと。		
実務経験教員の経歴						

科目名	化粧品化学 【対面授業と遠隔授業の併用実施】				
担当教員	八木 小聖		実務授業の有無		
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年間	開講時期	通年
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	60
授業概要、目的、授業の進め方	授業は座学形式で合同授業で1～2年間通年で以下の内容を習得する。 1. 美容師として必要Bなの化粧品及び化学基礎の知識を学ぶ 2. 化粧品概論・原料・基礎、メイクアップ・頭皮、毛髪用化粧品・芳香製品・化学基礎を学ぶ 3. 美容師国家試験（筆記）課題科目でもあることから対策授業も実施				
学習目標（到達目標）	・美容師国家試験（筆記）の取得レベルの知識を身につけるとともに、美容師として必要な化粧品の成分、使用方法の知識を習得し、現場で活かせることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・日本理容美容教育センター出版：化粧品化学 ・理容師美容師筆記試験問題と解答、解説 ・その他、補助プリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	第1章 化粧品概論 ・化粧品の社会的意義と品質特性（意義・必要条件） ・化粧品の規制（定義・製造販売・品質・表示&広告）		座学形式、指定教科書（P9～22）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
2	・化粧品の安全性と取り扱い上の注意（安定性・経時変化・使用上の取り扱いの注意） ・化粧品と安全性（安全性・表示成分と安全性・トラブル）		座学形式、指定教科書（P24～30）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
3	第2章 化粧品用原料 ・化粧品の対象となる人体各部の性状（種類と機能・皮膚と水・頭皮、毛髪、健康な状態・爪の性状・まぶたや口唇の性状・化粧品の成立）		座学形式、指定教科書（P31～40）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
4	・水性原料（水・エタノール） ・油性原料（油脂・ロウ類・炭化水素・その他・油性原料の機能） ・界面活性剤（基本性質・種		座学形式、指定教科書（P41～62）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
5	・色材（色材と化粧品・無機顔料・有機合成色素・光輝性顔料・天然色素） ・香料（香料と化粧品・種類・調合香料）		座学形式、指定教科書（P63～73）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
6	・その他の配合成分（品質保持に求められる配合成分・化粧品が与える機能・特殊成分） ・ネイル、まつ毛エクステンション用材料（合成樹脂・接着剤・塗料）		座学形式、指定教科書（P74～84）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
7	第2章 基礎化粧品 ・皮膚清浄用化粧品（皮膚の汚れと清浄作用・石鹸の種類と性質・その他） ・化粧水（種類と機能） ・クリーム、乳液（皮膚への影響・種類と機能）		座学形式、指定教科書（P85～100）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
8	・その他の化粧品（シェービング・化粧液・打粉・バック剤） ※確認テスト①		座学形式、指定教科書（P101～103）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入 ※前項迄の理解確認と復習のための小テストと解答・解説		
9	第4章 メイクアップ化粧品 ・種類と剤形 ・ベースメイクアップ化粧品（おしろい・ファンデーション類） ・ポイントメイクアップ化粧品（紅類・化粧品・ネイル技術用）		座学形式、指定教科書（P104～122）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
10	第5章 頭皮、毛髪化粧品 ・シャンプー剤（ヘアリンス剤・ヘアトリートメント） ・スタイリング剤（機能・油性・液状・高分子物質を基とするもの）		座学形式、指定教科書（P124～135）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
11	・パーマ剤（原理・分類・第1剤・第2剤・使用上の注意） ・ヘアカラー剤（種類と染毛メカニズム・一次染毛料・半永久染毛料・脱色剤、脱染剤・使用上の注意・その他） ・育毛剤（脱毛の原因・種類と機能・原料）		座学形式、指定教科書（P136～156）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
12	第6章 芳香製品と特殊化粧品 ・芳香製品（香水・オーデコロン・その他・使用上の注意） ・特殊化粧品（サンケア・美白用・制汗、防臭剤・ニキビ用）		座学形式、指定教科書（P157～164）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
13	化粧品を理解するための基礎化学		座学形式指定教科書（付録1～17）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
14	確認テスト②		定期試験前の理解確認と復習のための小テストと解答・解説		
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験 70%、出席率20% 学習意欲10%		薬剤を使用する美容師にとって化粧品の知識は必要不可欠です。頭皮等のトラブルにつながる可能性を理解し、各章毎での重要カ所を教科書アンダーライン、補助プリントへの記入をすること。また定期テスト、国家試験に向けての対策プリントの復習も必要です。			
実務経験教員の経歴					

科目名	文化論					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
担当教員	鈴木明美 佐藤留美子			実務授業の有無		
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年間	開講時期	通年	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	60	
授業概要、目的、授業の進め方	授業は座学形式で合同授業で1～2年間通年で以下の内容を習得する。 ・美容師国家試験（筆記）課題科目でもあることから対策授業も実施					
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・美容師国家試験（筆記）の取得レベルの知識を身につける ・美容の歴史をはじめ、ファッションとの関係性、流行等の知識を学ぶ。 					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<ul style="list-style-type: none"> ・日本理容美容教育センター出版：文化論 ・理容師美容師筆記試験問題と解答、解説 ・その他、補助プリント 					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	第1章 総論 第1節 総論			座学形式、指定教科書（P5～8）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
2	第2章 日本の理容業・美容業の歴史 第1節 理容業・美容業の発生 第2節 江戸時代の理容業・美容業			座学形式、指定教科書（P9～16）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
3	第3節 近代の理容業・美容業 第4節 現代の理容業・美容業			座学形式、指定教科書（P17～24）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
4	第3章 ファッション文化史 日本編 第1節 縄文・弥生・古墳時代 第2節 古代			座学形式、指定教科書（P9～39）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
5	第3節 中世 第4節 近世Ⅰ			座学形式、指定教科書（P40～48）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
6	第5節 近世Ⅱ 第6節 近代			座学形式、指定教科書（P49～83）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
7	第7節 現代Ⅰ 第8節 現代Ⅱ			座学形式、指定教科書（P84～97）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
8	第9節 現代Ⅲ 第10節 現代Ⅳ			座学形式、指定教科書（P98～106）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
9	第4章 ファッション文化史 西洋編 第1節 古代エジプト 第2節 古代ギリシャ・ローマ			座学形式、指定教科書（P107～112）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
10	第3章 古代ゲルマン 第4節 中世ヨーロッパ			座学形式、指定教科書（P113～119）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
11	第5節 近世Ⅰ 第6節 近世Ⅱ			座学形式、指定教科書（P120～127）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
12	第7節 近世Ⅲ 第8節 近代Ⅰ			座学形式、指定教科書（P128～133）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
13	第9節 近代Ⅰ 第10節 近代Ⅰ			座学形式、指定教科書（P134～142）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
14	第11節 近代Ⅰ 第12節 近代Ⅲ			座学形式、指定教科書（P143～148）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
15	第13節 近代Ⅳ 第14節 近代Ⅴ			座学形式、指定教科書（P149～157）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
16	第15節 近代Ⅵ 第16節 近代Ⅶ			座学形式、指定教科書（P158～162）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
17	第5章 礼装の種類			座学形式、指定教科書（P163～170）をもとに重要カ所にアンダーライン・補助プリントへの記入		
18						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験 70%、出席率20% 学習意欲10% 成績評価基準：A(80～100点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)とする。				歴史において、理容・美容がかかわってきた事を学ぶことで美容師としての美の成り立ちやあり方の理解を深める。教科書へのアンダーラインは勿論のこと、補助テキストへの記入もしっかり行うこと。		
実務経験教員の経歴						

科目名	美容技術理論					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
担当教員	佐藤留美子・須佐翼・岡村智代美・近早苗			実務授業の有無	○	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年間	開講時期	通年	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	150	
授業概要、目的、授業の進め方	<p>授業は座学形式で合同授業で1～2年間通年で以下の内容を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毛髪の知識や各種器具の使用法、多種多様な美容技術の知識を学ぶ 2. 美容師国家試験（筆記）課題科目でもあることから対策授業も実施 					
学習目標 (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・美容師国家試験（筆記）の取得レベルの知識を身につけるとともに、美容師として必要な美容技術・各種器具・毛髪の知識等を学び現場で活かせることを目標とする。 					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	<ul style="list-style-type: none"> ・日本理容美容教育センター出版：美容技術理論 ・理容師美容師筆記試験問題と解答、解説 ・その他、補助プリント 					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	美容技術理論1 序章			座学形式、指定教科書（P4～10）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
2	美容技術理論1 第1章 美容用具			座学形式、指定教科書（P14～33）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
3	美容技術理論1 第2章 シャンプーイング			座学形式、指定教科書（P34～63）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
4	美容技術理論1 第3章 ヘアデザイン			座学形式、指定教科書（P64～65）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
5	美容技術理論1 第4章 ヘアカットイング			座学形式、指定教科書（P86～117）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
6	定期テスト範囲対策			座学形式、指定教科書及び補助テキストを参考に対策プリントにて復習		
7	美容技術理論1 第5章 パーマネントウェーピング			座学形式、指定教科書（P126～155）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
8	美容技術理論1 第6章 ヘアセッティング			座学形式、指定教科書（P158～218）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
9	美容技術理論1 第7章 ヘアカラーリング			座学形式、指定教科書（P220～242）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
10	定期テスト範囲対策			座学形式、指定教科書及び補助テキストを参考に対策プリントにて復習		
11	美容技術理論2 第8章 エステティック			座学形式、指定教科書（P4～32）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
12	美容技術理論2 第9章 ネイル技術			座学形式、指定教科書（P36～64）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
13	美容技術理論2 第10章 メイクアップ			座学形式、指定教科書（P72～104）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
14	美容技術理論2 第11章 日本髪			座学形式、指定教科書（P112～134）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
15	美容技術理論2 第12章 着付けの理論と技術			座学形式、指定教科書（P134～174）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
16	定期テスト範囲対策			座学形式、指定教科書及び補助テキストを参考に対策プリントにて復習		
17	国家試験対策			座学形式、指定教科書及び補助テキストを参考に対策プリントにて復習		
18	国家試験対策			座学形式、指定教科書及び補助テキストを参考に対策プリントにて復習		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験 70%、出席率20% 学習意欲10% 成績評価基準：A(80～100点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)とする。				美容師としてお客様に「技術と心」を提供する為に必要となる、基礎的技術と理論を学ぶ。その上で必須となる国家試験取得を目指す。各章毎での重要カ所を教科書アンダーライン、補助プリントへの記入をすること。また定期テスト、国家試験に向けての対策プリントの復習も必要です。		
実務経験教員の経歴	各教員それぞれ美容師として美容現場で5～12年携わっており、美容技術の基本に加え、現場知識もプラスしての実践的知識の指導が可能である。					

科目名	運営管理 【対面授業と遠隔授業の併用実施】				
担当教員	関 雪花		実務授業の有無	○	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	1年	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	30
授業概要、目的、授業の進め方	<p>授業は座学形式で合同授業で1年次に以下の内容を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営者の考えや経営者が果たす責任・役割を学ぶ 2. 「経営者の視点・人という資源、従業員としての視点・顧客のために」の全3編を学ぶ 3. 美容師国家試験（筆記）課題科目となるため対策授業も実施 				
学習目標（到達目標）	・美容師国家試験（筆記）の取得レベルの知識を身につけるとともに、将来の経営者としての知識を学び未来で活かせることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・日本理容美容教育センター出版：運営管理 ・理容師美容師筆記試験問題と解答、解説				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	第1章 経営者の視点 ・経営とは・経営者とは (経営が必要とされる理由・経営が難しい理由・経営とは何か)		座学形式、指定教科書（P11～17）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
2	経営資源と経営計画・経営戦略・経営者が目指すもの)		座学形式、指定教科書（P18～23）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
3	理容業・美容業の経営について・業界の概要・競争の変化・サービスとしての理容、美容・理容業、美容業の顧客について		座学形式、指定教科書（P24～31）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
4	資金の管理（資金管理・収益と損益・会計の考え方・コスト管理・税金）		座学形式、指定教科書（P32～42）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
5	確認テスト①		前項の理解確認と復習のための小テストと解答・解説		
6	第2編 人という資源 従業員としての視点 人という資源とは・能力を高める・やる気にさせる ・給与・待遇、福利厚生・労働者の権利		座学形式、指定教科書（P43～55）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
7	健康・安全な職場環境の実現 ・健康管理・理容、美容の仕事と健康・理容業、美容業に特徴的な健康問題・作業環境の健康問題		座学形式、指定教科書（P56～63）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
8	従業員としての視点から (従業員としての責任・社会保険①②③・キャリアプラン)		座学形式、指定教科書（P64～82）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
9	第3編 顧客のために ・サービスデザイン（顧客が求める価値・価値の実態・顧客満足の実現・最も重要な価値（人）・価値の多様性・サービスの範囲）		座学形式、指定教科書（P83～95）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
10	マーケティング ・理美容師のマーケティング・マーケティングミックスの要因短期的要因①② 長期的要因①②・サービスのシステム化		座学形式、指定教科書（P96～111）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入		
11	サービスにおける人の役割 ・接客についての理解・良い接客のために・接客の実践①②③④⑤		座学形式、指定教科書（P112～125）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入 ※2年次インターンシップでの重要項目なので、要チェック		
12	接客におけるトラブルと対応 接客で発生が予想される問題 問題を深刻化させない対策・対応		座学形式、指定教科書（P126～131）をもとに重要カ所にアンダーライン・板書・補助プリントへの記入 ※3年次インターンシップでの重要項目なので、要チェック		
13	確認テスト		定期試験前の理解確認と復習のための小テストと解答・解説		
14					
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験 70%、出席率20% 学習意欲10% 成績評価基準：A(80～100点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)とする。			・美容学校生としては、経営については遠い未来のことではあるが、従業員としての視点や顧客満足、サービスとはの基本をこの科目を通して学ぶことが重要。定期試験、国家試験に向けて、確認テスト、教科書重要箇所の復習をしっかりと実施する。		
実務経験教員の経歴					

②

国際ビューティモード専門学校 シラバス

科目名	美容実習（ワインディング）					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
担当教員	関 雪花・田中 千種・高橋 菜			実務授業の有無	○	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	1年	開講時期	通年	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	338	
授業概要、目的、授業の進め方	授業は立位形式実習で行い、下記の内容を2年間かけて学ぶ 1、パーマ技術の習得 2、国家試験課題として合格レベルでの技術習得					
学習目標 (到達目標)	国家試験合格レベルの技術習得					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ワインディング道具一式、ワインディング専用ウィッグ、補助プリント、教科書					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	ワインディングの基礎（前期）			4～5月 ワインディングの巻き方の基礎		
2	ワインディングの全頭巻き（前期）			6～7月 全頭を35分で巻く&定期試験		
3	巻く速さの向上（後期中間）			9～11月上旬 全頭を30分で巻く		
4	巻く速さの向上（後期中間）			11月中旬～12月 全頭を25分巻く		
5	速さ&クオリティーの向上（後期後半）			1～3月全頭20分で巻く&仕上がりチェック&定期試験		
6	ワインディングバランス確認 タイム向上			4月～5月 全頭22分で巻く		
7	ワインディング チェック項目の確認 タイム向上			6月～7月 全頭20分でまく 定期試験		
8	技術&衛生指導			9月～12月 道具配置～衛生試験の確認 定期試験		
9	技術&衛生指導 タイム向上			1月 模擬試験		
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
・実技定期試験 70% ・学習意欲 10% ・出席率 20% 成績評価基準：A(80～100点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)とする。				パーマの技術を理解する事。巻き方や、構成等が自己流にならないように十分注意する事が必要である。また道具の取り扱い、ウィッグの取り扱いにおいてもお客様とって履修する事が非常に重要である。		
実務経験教員の経歴	いずれの教員も美容室現場にて5～10年美容業に携わっていたことから、国家試験課題だけではなく現場の技術指導も可能である。					

②

国際ビューティモード専門学校 シラバス

科目名	美容実習（オールウェーブ）					【対面授業と遠隔授業の併用実施】	
担当教員	小林 未来・関 雪花・田中 千種・高橋 栞			実務授業の有無	○		
対象学科	ヘアメイク		対象学年	2年間		開講時期	通年
必修・選択	必須		単位数	—		時間数	363
授業概要、目的、授業の進め方	<p>授業は立位形式（実習）で行い、下記の内容を2年間かけて学ぶ</p> <p>1、オールウェーブセッティング技術習得</p> <p>2、国家試験課題として合格レベルでの技術習得</p>						
学習目標（到達目標）	国家試験合格レベルでの技術の習得						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オールウェーブ用具一式、オールウェーブ専用ウィッグ、補助プリント						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	ウィッグの仕込み～fリンガーウェーブの基礎			9～10月 ウィッグの仕込み～シンガーウェーブの練習			
2	ウェーブの作成&構成の理解			11月 国家試験課題に伴う構成の理解とウェーブの作成			
3	カールの作り方と構成の理解			12月 国家試験に伴うカールの構成と理解			
4	5段目までの作成とトータルバランス			1～3月 国家試験に伴うトータルバランスの理解			
5	6・7段目の習得			4月～5月 全体作成と30分以内で完成			
6	全体バランスの向上&タイムUP			6月～7月 25分で完成 バランス確認			
7	技術&衛生指導			9月～12月 道具配置～衛生試験の確認 定期試験			
8	技術&衛生指導 タイム向上			1月 模擬試験			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
評価方法・成績評価基準				履修上の注意			
<p>・実技定期試験 70% ・学習意欲 10% ・出席率 20%</p> <p>成績評価基準：A(80～100点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)とする。</p>				<p>オールウェーブの技術を理解する事。ウェーブの作り方、カールの作り方、構成等が自己流にならないように十分注意する事が必要である。また道具の取り扱い、ウィッグの取り扱いにおいてもお客様と思って履修する事が非常に重要である。</p>			
実務経験教員の経歴	いずれの教員も美容室現場にて5～10年美容業に携わっていたことから、国家試験課題だけではなく現場の技術指導も可能である。						

科目名	美容実習（カット）					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
担当教員	小林 未来・近 早苗・佐藤 留美子・田中 千種			実務授業の有無	○	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年	開講時期	後期	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	124	
授業概要、目的、授業の進め方	<p>授業は立位形式（実習）で行い、下記の内容を学ぶ</p> <p>1、基本のレイヤーカットの仕組み</p> <p>2、国家試験課題として合格レベルでの技術習得</p>					
学習目標（到達目標）	国家試験合格レベルでの技術の習得					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	カット用具一式、カットウィッグ、補助プリント					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	展開図とデモンストレーションをもとに、ブロックごとのカット			10月	全体のカットの流れの把握、注意事項の確認	
2	展開図を見ずに一通りのカットを実施			11月	30分でカット	
3	技術&衛生指導 タイム向上			12月	20分でカット	
4	模擬試験 技術&衛生指導			1月	20分カット+衛生	
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
・実技定期試験 70% ・学習意欲 10% ・出席率 20% 成績評価基準：A(80~100点)・B(79~70点)・C(69~60点)・D(59点以下)とする。				オールウェーブの技術を理解する事。ウェーブの作り方、カールの作り方、構成等が自己流にならないように十分注意する事が必要である。また道具の取り扱い、ウィッグの取り扱いにおいてもお客様と思って履修する事が非常に重要である。		
実務経験教員の経歴	いずれの教員も美容室現場にて3~10年美容業に携わっていた国家試験課題だけではなく現場の技術指導も可能である。					

②

国際ビューティモード専門学校 シラバス

科目名	美容実習（実務実習）		【対面授業のみ実施】		
担当教員	佐藤留美子・近早苗・小林未来・田中千種・松木達彦		実務授業の有無	○	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必須	単位数	一	時間数	60
授業概要、目的、授業の進め方	サロンにて実習をお願いし、サロンワークの体験をする。				
学習目標 (到達目標)	サロンワークを通して職業理解を深めることで、残りの学校生活での課題を見つけ克服していく				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップを通して、職業理解を深める		7月～8月 サロンワークを通して、仕事の流れを知る		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出勤記録（出席率）90% ・外部評価 10%			サロンの一員として、就業規則を遵守すること。 仕事を通して、お客様の為に何が出来るのか考え行動できるようにする。		
実務経験教員の経歴	各サロン（美容室）にて美容師免許取得者・現場経験者が指導者となる				

②

国際ビューティモード専門学校 シラバス

科目名	美容実習（国家試験実技模擬試験）		【対面授業のみ実施】		
担当教員	佐藤留美子・近早苗・小林未来・須佐翼・田中千種・松木竜彦		実務授業の有無	○	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	15
授業概要、目的、授業の進め方	国家試験本番に向けて準備をする				
学習目標 (到達目標)	国家試験本番で、力を発揮できるようにする				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	国家試験実技の流れを知る		12月 実技を通して実施し、試験事項の確認をする		
2	国家試験本番同様のスケジュールで実施（計5回実施）		1月 反復、国家試験同様の流れを実施		
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
・模擬試験 80% ・出席率 20% 成績評価基準：A(80~100点)・B(79~70点)・C(69~60点)・D(59点以下)とする。			2年間の集大成として、国家試験合格に向けみんなで協力して取り組む。 国家試験の流れ・形・規定・衛生など全てにおいて漏れの内容に把握して実行できるようにする		
実務経験教員の経歴	いずれの教員も美容室現場にて3~10年美容業に携わっていた				

科目名	ベーシックメイク					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
担当教員	関 雪花・田中 千種			実務授業の有無	○	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	1年	開講時期	通年	
必修・選択	選択	単位数	—	時間数	60	
授業概要、目的、授業の進め方	<p>基本的な3つのパターン（基本・曲線・直線）と3つのパターンを使いモデルに合わせたパーソナルメイクを習得する</p> <p>1. 相モデルでメイクアップの実践形式で基礎知識・基礎技術の習得</p> <p>2. パーソナルメイクの習得</p>					
学習目標（到達目標）	メイクアップの基礎技術と基礎知識を習得すると共に美容師としての接客マナー等を現場で活かせる事を目標とする					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	FORUM MAKE-UP PARIS プロフェッショナルベーシックメイクアップコーステキスト、メイクアップパレット、ブラシセット等メイク用具一式、その他、補助プリント					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	教材配布、FORUM MAKE-UPについてメイクアップの効果、技術者としての心得、道具			使用する道具等の確認、テキスト(P1～7)・DVDを使用 しての説明と実践		
2	「セッティング～メイクアップベース」カウンセリング～メイクアップ前のスキンケア			テキスト(P28・29) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
3	「コンシーラー～フェイスパウダー」カウンセリング～フェイスパウダー			テキスト(P28・31) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
4	「アイメイク（基本）フレームライン」カウンセリング～アイメイク基本フレームライン			テキスト(P28・34) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
5	「アイメイク（基本）フレームライン、アイブロウ」カウンセリング～アイブロウ			テキスト(P28・35) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
6	「チーク・リップ(基本)～仕上げ」カウンセリング～チーク・リップ・仕上げ			テキスト(P28・39) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
7	基本のフルメイク			実践形式、相モデルで実習（45分）		
8	「アイメイク（曲線）フレームライン」カウンセリング～アイメイク曲線フレームライン			テキスト(P28・34) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
9	「アイメイク（曲線）フレームライン、アイブロウ」カウンセリング～アイブロウ、トリミング			テキスト(P28・35) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
10	「チーク・リップ（曲線）～仕上げ」カウンセリング～チーク・リップ・仕上げ			テキスト(P28・39) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
11	曲線のフルメイク			実践形式、相モデルで実習（45分）		
12	「アイメイク（直線）フレームライン」カウンセリング～アイメイク曲線フレームライン			テキスト(P28・34) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
13	「アイメイク（直線）フレームライン、アイブロウ」カウンセリング～アイブロウ、トリミング			テキスト(P28・35) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
14	「チーク・リップ（直線）～仕上げ」カウンセリング～チーク・リップ・仕上げ			テキスト(P28・39) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
15	直線のフルメイク			実践形式、相モデルで実習（45分）		
16	「顔分析・筆記対策」理想的な顔バランス・パーツバランス、輪郭の印象、モデルのメイク構築			テキスト(P10・40) 重要カ所にアンダーライン・板書、 実践形式、相モデルで実習		
17	パーソナルメイク 練習			実践形式、相モデルで実習（45分）		
18	パーソナルメイク 実技テスト			相モデルでテスト（45分）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
・実技定期試験 70% ・学習意欲 10% ・出席率 20% 成績評価基準：A(80～100点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)とする。				FORUM MAKE-UP PARISのメイクアップ技術をベースにテキストと教務のデモンストレーションをしっかりと見て、学生が相モデルの実践形式で基本技術、理論、接客姿勢、マナーなどの基礎知識を習得をする。		
実務経験教員の経歴	いずれの教員も美容室現場にて5～10年美容業に携わっていたことから、現場の技術指導も可能である。					

科目名	ヘアアレンジ&クリエイティブメイク					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
担当教員	関 雪花・田中 千種		実務授業の有無	○		
対象学科	ヘアメイク	対象学年	1年	開講時期	通年	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	176	
授業概要、目的、授業の進め方	将来美容師経験を積み重ね、ヘアメイクに特化した現場で活用・活躍できるメイク・ヘアアレンジの基礎及び応用理論・技術を現場経験豊富な内勤教務と第1線で活躍している外部講師より学ぶ。					
学習目標 (到達目標)	基本的なヘアメイクスタイルから時流の流行のスタイルまでを身につけると共に現場実習（インターンシップ）でも対応できる知識と技術を身につける					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	内部オリジナルテキスト、メイクアップパレット、ブラシセット・アイロン等ヘアメイク用具一式、その他					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考	
1	【ヘア基本①】専用ウイッグを使用しブラッシング・コーミング・ゴム止め技術の習得				テキストを用い説明後、教員による デモ学生による実践	
2	【ヘア基本②】各種ヘアピンの使用方法					
3	【ヘア基本③】編み込みⅠ（二つ編み・三つ編み・表編み）					
4	【ヘア基本④】編み込みⅡ（裏編み・縄編み・4つ編み）					
5	【ヘア基本⑤】ヘアアイロンテクニックⅠ（ストレート・筒形）					
6	【ヘア基本⑥】ヘアアイロンテクニックⅡダウンスタイル					
7	【ヘア基本⑦】ヘアアイロンテクニックⅡリバース・フォワード巻き					
8	【ヘア基本⑧】ヘアアイロンテクニックⅢ ハーフアップスタイルを完成させる					
9	【ヘア基本⑨】ヘアアイロンテクニックⅢ ストレートアイロンを使用してのハーフアップスタイルを完成させる					
10	【ヘア基本⑩】①~⑨までの技術を使い、アップスタイルを完成させる					
11	【クリエイティブメイク①】ナチュラルメイクⅠ デモ&実習				テキストを用い説明後、教員による デモ学生による実践	
12	【クリエイティブメイク②】ナチュラルメイクⅡ デモ&実習					
13	【クリエイティブメイク③】ナチュラルメイクⅢ デモ&実習					
14	【クリエイティブメイク④】質感メイクⅠ（フェミニン） デモ&実習					
15	【クリエイティブメイク⑤】質感メイクⅡ（マッシュ） デモ&実習					
16	【クリエイティブメイク⑥】質感メイクⅢ（ゴージャス） デモ&実習					
17	【クリエイティブメイク⑦】質感メイクⅣ（セクシー） デモ&実習					
18	【クリエイティブメイク⑧】質感メイクⅤ（ヘルシー） デモ&実習					
19	【クリエイティブメイク⑨】撮影メイクⅠ（コントロールメイク）					
20	【クリエイティブメイク⑩】撮影メイクⅡ					
21	【クリエイティブメイク⑪】撮影メイクⅢ					
22	【クリエイティブメイク⑫】撮影メイクⅣ					
23	【クリエイティブメイク⑬】撮影メイクⅤ					
24	【クリエイティブメイク⑭】作品作り&撮影①					
25	【クリエイティブメイク⑮】作品作り&撮影②					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
・作品作り 70% ・学習意欲 10% ・出席率 20% 成績評価基準：A(80~100点)・B(79~70点)・C(69~60点)・D(59点以下)とする。				ヘアメイクにとって必要不可欠なヘア・メイクの基礎技術を、しっかり理解する事。また、各スタイル毎での重要な所をテキストへのアンダーライン、書き込み等をする事。各教務によるデモンストレーションをしっかりと見る事が非常に重要である。最終的に各自オリジナルの作品作りと撮影を実施		
実務経験教員の経歴	いずれの教員も美容室現場にて5~10年美容業に携わっていたことから、現場の技術指導も可能である。					

科目名	ヘッドスパ&ブロー					【対面授業のみ実施】
担当教員	小林 未来 近 早苗 鈴木 明美 須佐 翼 岡村 智代美 佐藤留美子 関雪花 田中千穂 松本達彦 高橋菜 小野塚 佳那			実務授業の有無	○	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年間	開講時期	通年	
必修・選択	選択	単位数	—	時間数	88	
授業概要、目的、授業の進め方	<p>授業は実習室にて2人1組のペアで行い、2年間で以下の内容を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シャンプー、ブローの基本的な手順を習得する。 2. サイドシャンプー、バックシャンプーの両シャンプー台に対応できる技術を習得する。 3. 実際に人頭、人毛に触れ、Wigよりも実践的な授業を行う。 4. 段階を踏んで徐々に手順を加え、クオリティーを高める。 					
学習目標 (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1.両シャンプー台、ドライヤー、ブローブラシの操作方法の習得。2.シャンプー、ブローの手順を習得。 3.髪質、骨格に合わせたシャンプーイング、ブローが出来る 					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	美容技術理論1 美容実習1 シャンプー道具、ブロー道具一式 補助プリントなど					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	シャンプー(以下SP)の目的、SP台の使用方法、SPクロスの付け方、ウェットまでの手順 以上を実践			テキストを用い説明後、教員によるデモ 学生による実践		
2	前回の復習をした後、SPの手順を実践			テキストを用い説明後、教員によるデモ 学生による実践		
3	ペアを換え、ドライの手順をデモ、SP後に実践			テキストを用い説明後、教員によるデモ 学生による実践		
4	ペアを換え、ハンドブローの手順をデモ、SP後に実践			テキストを用い説明後、教員によるデモ 学生による実践		
5	ペアを換え、前回までの手順を実践			手順確認などにテキストを用い、実践		
6	ペアを換え、ブローの手順をデモ、SP後に実践			テキストを用い説明後、教員によるデモ 学生による実践		
7	ペアを換え、SPの回数を増やし、前回までの手順を実践			テキストを用い説明後、教員によるデモ 学生による実践		
8	ペアを換え、前回までの手順を実践し、学生間ペアでスタイリングをし合う			スタイリング方法の指導など行う		
9	ペアを換え、前回までの手順を実践し、より満足度の高い技術を提供できるよう実践			必要箇所のデモ、実習室を巡回し不足している技術指導		
10	ペアを換え、前回までの手順を実践し、より満足度の高い技術を提供できるよう実践			必要箇所のデモ、実習室を巡回し不足している技術指導		
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率 80% 学習意欲 20%				相モデルでの授業となる事から、シャンプー&ブローの知識・技術の修得はもちろんではあるが、サービス業の側面から、声掛け、気遣い、思いやり等の気持ちを持ち施術に当たる事。		
実務経験教員の経歴	いずれの教員も美容室現場にて3~10年美容業に携わっていたことから、現場の技術指導も可能である。					

②

国際ビューティモード専門学校 シラバス

科目名	修了制作					【対面授業のみ実施】
担当教員	関 雪花・田中 千種			実務授業の有無		
対象学科	ヘアメイク	対象学年	1年	開講時期	後期	
必修・選択	選択	単位数	—	時間数	30	
授業概要、目的、授業の進め方	1年次で習得した技術(カット、ヘアアレンジ、ヘアカラー、メイク等)を学生主体で企画構成をしたヘアショーを作りステージ発表をする。					
学習目標 (到達目標)	1年次で習得した技術(カット、ヘアアレンジ、ヘアカラー、メイク等)を学生主体で企画構成をしたヘアショーを作りステージ発表をする。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	前年度の修了制作の画像					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	テーマ・ショーの概要構築			意見・要望を出して話し合い		
2	テーマ決定、構成・音楽(BGM)・ライティングを決める。			モデル・技術者・機材等担当を決める。		
3	テーマに沿ってのヘア・メイク練習。構成(内容・動き・ウオーキング)・音楽(BGM)・ライティングなど。衣装作成			意見を出し合い実際にヘアアレンジやメイクの練習をして仕上げ完成を決めていく。衣装・小物作成		
4	ヘア・メイク練習。構成(内容・動き・ウオーキング)・音楽(BGM)・ライティングなど。衣装作成			グループごとヘアアレンジやメイクの練習をして仕上げ完成を決めていく。衣装・小物作成		
5	クラス紹介画像			クラス全員の紹介画像作成		
6	校内リハーサル			本番の時間・音楽・動きをして確認をする		
7	前日会場リハーサル			本番の時間・音楽・動きをして確認をする		
8	修了制作ショー当日本番			多くの保護者の前で1年間の学習の成果をヘアショーとしてステージ発表する		
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率 80% 学習意欲 20%				1年次で習得した技術をクラス内で一致団結してコミュニケーションを図り、構成・音楽などすべてを構築してがくしゅうの成果をステージ発表する。		
実務経験教員の経歴						

科目名	卒業制作					【対面授業のみ実施】
担当教員	小林 未来、近 早苗、田中千種、佐藤留美子、松木 達彦			実務授業の有無		
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年	開講時期	後期	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	30	
授業概要、目的、授業の進め方	2年間で習得した知識と技術(カット、ヘアアレンジ、ヘアカラー、メイク等)を活かし、学生主体で企画構成をしたヘアショーを作りステージ発表をする。					
学習目標 (到達目標)	2年間で習得した知識と技術(カット、ヘアアレンジ、ヘアカラー、メイク等)を学生主体で企画構成をしたヘアショーを作りステージ発表をする。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	1年次修了制作での経験と過去の映像や、外部講師による特別セミナー等					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	テーマ・ショーの概要構築			意見・要望を出して話し合い		
2	テーマ決定、構成・音楽(BGM)・ライティングを決める。			モデル・技術者・機材等担当を決める。		
3	テーマに沿ってのヘア・メイク練習。構成(内容・動き・ウオーキング)・音楽(BGM)・ライティングなど。衣装作成			意見を出し合い実際にヘアアレンジやメイクの練習をして仕上げ完成を決めていく。衣装・小物作成		
4	ヘア・メイク練習。構成(内容・動き・ウオーキング)・音楽(BGM)・ライティングなど。衣装作成			グループごとヘアアレンジやメイクの練習をして仕上げ完成を決めていく。衣装・小物作成		
5	クラス紹介画像			クラス全員の紹介画像作成		
6	校内リハーサル			本番の時間・音楽・動きをして確認をする		
7	前日会場リハーサル			本番の時間・音楽・動きをして確認をする		
8	卒業制作ショー当日本番			多くの保護者や在校生に向け、2年間の集大成である学習成果をヘアショーとしてステージ発表する		
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
出席率 80% 学習意欲 20%				2年間で習得した知識と技術を、学生主体でクラス一丸となりコミュニケーションを図りながら、構成・音楽などすべてを構築して学習の成果をステージ発表する。		
実務経験教員の経歴						

科目名	選択メイクⅠ				【対面授業のみ実施】	
担当教員	関雪花・田中千種・小林未来・斎藤 和江		実務授業の有無	○		
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年	開講時期	通年	
必修・選択	選択	単位数	—	時間数	146	
授業概要、目的、授業の進め方	1年次に学んだヘアメイクの知識・技術ベースに更にヘアメイク技術者として「雑誌・TV・ブライダル」等で活躍している講師より、複数のテーマに添ってデモンストレーションと実習を通して必要な知識と技術を身につける					
学習目標 (到達目標)	基本的な知識と技術をベースとして、よりクリエイティブな作品作りを通して、多様化するヘアメイク業界で活躍できる技術と知識を学ぶ					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナルテキスト・ヘアメイク用具一式・筆記用具等					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考	
1	オリエンテーション・新規教材配布と説明・今後の方向性説明&動機付け				オリジナルテキスト・各自で収集した年代別画像をデッサンに起こし、ヘアメイクの実習・IPAD&スマホでの撮影・作品ストック	
2	トレンドメイクとトレンドカラーを学び、それに合った技術を身につける					
3	年代別メイクⅠ 30年代 ※年代特徴を画像を通して感じ、作品作りへと落とし込む					
4	年代別メイクⅡ 50年代					
5	年代別メイクⅢ 60年代					
6	年代別メイクⅣ 80年代					
7	年代別メイクⅤ 90年代					
8	クリエイティブヘアメイク作品作り(自由制作)				・特別講師によるデモンストレーション及び実習 ・各チームに分かれてのテーマ設定、研究、実践	
9	ブライダルヘアメイク基本Ⅰ(洋装のヘアアレンジとメイク①)					
10	ブライダルヘアメイク基本Ⅱ(洋装のヘアアレンジとメイク②)					
11	ブライダルヘアメイク基本Ⅲ(洋装ヘアアクセサリ・ブーケ作成)					
12	ブライダルヘアメイク基本Ⅳ(和装メイクとフィッティング)					
13	ブライダルヘアメイク応用Ⅰ(ドレスフィッティング基本とドレスに合わせたメイク①)					
14	ブライダルヘアメイク応用Ⅱ(ドレスフィッティング基本とドレスに合わせたメイク②)					
15	ブライダルヘアメイク応用Ⅲ(トータルコーディネート・撮影知識習得)					
16	模擬結婚式(各チームにてテーマを決め模擬結婚式の作品作りと撮影)					
17	クリエイティブヘアメイク作品作り(自由制作)Ⅰ					
18	クリエイティブヘアメイク作品作り(自由制作)Ⅱ					
19	プロカメラマンによる撮影Ⅰ					
20	プロカメラマンによる撮影Ⅱ					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
・作品作り 70% ・学習意欲 10% ・出席率 20% 成績評価基準：A(80~100点)・B(79~70点)・C(69~60点)・D(59点以下)とする。				現場に必要な知識・技術スキルを身につけると共に、技術だけではなく技術者としてお客様・モデルさんとのコミュニケーションもしっかりとれるようにしていく		
実務経験教員の経歴		各教員それぞれ美容師として美容現場で3~12年携わっていた。美容関連企業経営ヘアメイクの現場で20年以上				

科目名	選択メイクⅡ				【対面授業のみ実施】	
担当教員	関 雪花・田中 千種・近早苗・阿部 久美子・佐藤 圭			実務授業の有無	○	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年	開講時期	通年	
必修・選択	選択	単位数	—	時間数	146	
授業概要、目的、授業の進め方	1年次に学んだヘアメイクの知識・技術ベースに更にヘアメイク技術者として「舞台・イベントバックヤード・特殊メイク」等で活躍している講師より、複数のテーマに添ってデモンストレーションと実習を通して必要な知識と技術を身につける					
学習目標 (到達目標)	基本的な知識と技術をベースとして、特殊メイク他、非日常的な作品作りを通して、業界で活躍できる技術と知識を学ぶ					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナルテキスト・ヘアメイク用具一式・筆記用具等					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考	
1	オリエンテーション・新規教材配布と説明・今後の方向性説明&動機付け				・特別講師によるデモンストレーション&実習	
2	【舞台メイク】Ⅰ (ベースメイク①)					
3	【舞台メイク】Ⅱ (ベースメイク②)					
4	【舞台メイク】Ⅲ カラーコントロール① (アイシャドー・ハイライト・チーク・リップ等)					
5	【舞台メイク】Ⅳ カラーコントロール② (アイシャドー・ハイライト・チーク・リップ等)					
6	【舞台メイク】Ⅴ 撮影映えメイクのポイント					
7	【ボディペインティング】基本Ⅰ (舞台メイクの基礎技術を応用してのボディメイク)					
8	【ボディペインティング】基本Ⅱ (舞台メイクの基礎技術を応用してのボディメイク)					
9	【特殊メイク】Ⅰ (やけど・傷・アザ等の基本を学ぶ)					
10	【特殊メイク】Ⅱ (作成基本技術を元に各自自由制作)					
11	【作品作り&撮影】Ⅰ (舞台メイクとボディペイントを駆使しての自由課題作品作り)				各チーム別に作品テーマ設定～完成までさせる	
12	【作品作り&撮影】Ⅱ					
13	【作品作り&撮影】Ⅲ					
14	【作品作り&撮影】Ⅳ					
15	プロカメラマンによる撮影Ⅰ				2年間の集大成の作品作りとプロカメラマンによる撮影技術も並行して学ぶ	
16	プロカメラマンによる撮影Ⅱ					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
・作品作り 70% ・学習意欲 10% ・出席率 20% 成績評価基準：A(80~100点)・B(79~70点)・C(69~60点)・D(59点以下)とする。				様々なメイク技術を学ぶことで、仕事の幅・活躍の場を自ら広げていききっかけにする。 通常のヘアメイクはもちろん、非日常的な作品作りでの現場で活躍できる技術・知識を身につける		
実務経験教員の経歴	各教員それぞれ美容師として美容現場で3～12年携わっていた。特殊メイクの現場で20年以上					

科目名	就職実務 【対面授業と遠隔授業の併用実施】				
担当教員	小林未来・関 雪花・田中 千種・高橋 菜・植木 絵美			実務授業の有無	
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年間	開講時期	通年
必修・選択	選択	単位数	—	時間数	95
授業概要、目的、授業の進め方	働くことについての理解を深める 就職活動に必要なスキルを身につける 履歴書の書き方・挨拶の仕方など基本的な対策				
学習目標 (到達目標)	主体的に物事を考え、自主的に動き、希望就職を叶える				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社 ウイネット 勝つための就職ガイド SUCCESS ① BeStar Magazine RECRUIT GUIDE BOOK 美容学生のための就活の教科書 ② オリジナル補助テキスト				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	就職活動の心構え、求職登録面接に向けて書類作成・面接練習		1年次 9月～12月 ①テキスト (P6～33)講義形式で行い、テキストにアンダーラインやグループディスカッションを行う		
2	就職書類の書き方、企業研究の方法、就職活動の流れを知る		1年次 1月～3月 ①テキスト (P35～50)講義形式で行い、テキストにアンダーラインやグループディスカッションを行う		
3	就職ガイダンスに向けての企業研究、		2年次 4月 求人票を元に、一人が複数店舗研究 最後に、クラス全員で発表し情報をシェアする		
4	自己PR・志望動機の作成		2年次 5月 ②テキストを使用し、読み合わせ、アンダーラインを引く。ワークシートを利用して抽出していく		
5	模擬面接の実施		2年次 6月 グループを組み、面接官と受験者・撮影者に分かれ面接。ビデオを見ながらフィードバックし改善をはかる		
6	インターンシップに向けての対策、必要書類の説明		2年次 7月 ロープレを行い、実際のサロンの動きを理解する		
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率 80% 学習意欲 20%			社会に出るにあたり、仕事の意味についてしっかり考え、自分の将来を考えるきっかけにしていく。 主体性・自主性を持って就職活動にあたり、社会人としてのルール・マナーも同時に身につける。		
実務経験教員の経歴					

②

国際ビューティモード専門学校 シラバス

科目名	コミュニケーション実践					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
担当教員	小林未来・関 雪花・田中 千種・高橋 菜			実務授業の有無		
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年間	開講時期	通年	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	79	
授業概要、目的、授業の進め方	人間力の向上のために行う。クラス内でのディスカッションや、団結力・協調性の向上を図っていく。					
学習目標 (到達目標)	人間力育成・向上					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	入学時・進級時オリエンテーション		入学時のコミュニケーションとしてゲーム等を交え実施			
2	学園祭		1.2年次7月 学園祭を通し、よりいっそうのコミュニケーションを図る			
3	大運動会		1.2年次10月 大運動会を通し、協調性の向上を図る			
4	外部セミナー		人間力セミナー、美容セミナー開催			
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
出席率80% 学習意欲20%			学校行事・イベント・特別セミナー等は、コミュニケーション能力、協調性、積極性をはぐくむための重要な科目です。また、学部講師セミナーにおいては、現場の講師からの今の流行・最新技術を学べる非常に貴重な時間となるので、将来のためにしっかりと学ぶこと。			
実務経験教員の経歴						

科目名	総合人間性学習					【対面授業と遠隔授業の併用実施】
	小林未来・関 雪花・田中 千種・高橋 菜	実務授業の有無				
対象学科	ヘアメイク	対象学年	2年間	開講時期	通年	
必修・選択	必須	単位数	—	時間数	156	
授業概要、目的、授業の進め方	人間力向上のために、必要な事柄を学習や体験で身に付けていく。クラス目標の決定やディスカッションなどクラス内の団結力・協調性向上や個人目標の決定・振り返りなど様々な事が鰐をクラス単位の授業として取り組みます。					
学習目標 (到達目標)	人間力、協調性、の向上、個人目標の設定					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実践行動学テキスト					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考			
1	実践行動学 Part1 意欲的な心構えについて		テキストを使い、ディスカッション&記入形式で行う			
2	マジックドア1 夢と目標について		P1～P7 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
3	マジックドア2 誤った思い込みと言い訳		P8～P13 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
4	マジックドア3 行動のよりどころと心構え		P14～P22 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
5	マジックドア4 自分への信頼を取り戻すために		P23～P32 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
6	マジックドア5 目標を設定しよう		P33～P42 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
7	国内研修 ホスピタリティーについて		11月 ディズニーランドのホスピタリティーを学ぶ			
8	実践行動学 Part2 自分の可能性を広げよう		テキスト使い、ディスカッション&記入形式で行う。			
9	マジックドア1 プラス思考が自分の可能性を大きく広げる		P1～P4 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
10	マジックドア2 考え方を変えれば行動が変わる		P5～P11 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
11	マジックドア3 あなたの問題はあなたが解決できる		P12～P19 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
12	マジックドア4 あなたのコミュニケーションを見直そう		P20～P27 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
13	マジックドア5 目標が才能・可能性を開花させる		P28～P36 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
14	実践行動学Part3 社会へ出る準備を始めよう マジックドア1 入学から今日までの成長を実感しよう		P1～P4 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
15	マジックドア2 働く自分をイメージしてみよう マジックドア3 自分が最大限に活きる働き方とは		P5～P10 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える P11～P14 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
16	マジックドア4 将来を描いてみよう		P15～P20 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
17	マジックドア5 夢実現への第一歩を踏み出そう		P21～P24 グループディスカッション、テキストを使い現状の自分を考える			
18	海外研修 グローバルスタンダード教育の一環として、幅広い世界の技術や知識を吸収する。		2年次11月～12月 教育提携校での研修			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意			
出席率80% 学習意欲20%。			学生の学習意欲が向上するようになぜ必要なのかを、始める前にしっかり導入し、環境を整える事が重要である。			
実務経験教員の経歴						